

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



奈良の春日山原生林に入る前に説明をうける訪日団メンバーと付き添いボランティアさんたち。

Contents

- 緑色地球ネットワーク訪日団の10日間 P 2
- 年末カンパのお願い P 5
- 08 春の黄土高原 WT のご案内 P 7

2007.11

118

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑色地球ネットワーク訪日団の10日間

みなさん、お世話になりました

おかげさまで、緑色地球ネットワーク訪日団の一行は10日間の日程を終了し、無事帰国しました。

今回は、総工会からの参加者が多く、緑化や森林に関する知識は必ずしも多くない人もいたのですが、大阪でも東京でも、たくさんのGENの協力者に会って、この緑化協力活動の意義は十分に実感できたようです。

各地で参加していただいたボランティアさんの感想をまじえながら、活動の様子をご紹介します。

10月11日(木)

陳金宝団長以下、8人が関西国際空港到着。リムジンバスで大阪市内に移動。

12日(金)

六甲再度山の造林地を見学。100年前、「神戸の水がまずいのは山に木がないせいだ」と植林をはじめたのは居留地に住む外国人でした。当時の写真と現場を見て、訪日団メンバーも「大同も100年後には…」と刺激をうけたようです。

神戸市立森林植物園も見学。木の本数、種類数、成長ぶり、どの点にも感心しきりでした。この日はGEN代表の立花吉茂さんの案内・解説でした。

大同事務所の皆さんとは1年ぶりの再会でした。

神戸に住む人でも、今は緑豊かな六甲山系の山々が、100年前は「ハゲ山」であったと知る人は、それほど多くありません。先人の努力の成果を訪日団の皆さんに見てもらいました。訪日団の皆様がどんな印象を持



六甲再度山の造林地を見学。100年前ははげ山だった。

たれたのか関心があります。

大同の山々も厳しい条件のもと、時間はかかりますが、現地の皆さんの懸命の努力で豊かな緑が復活することを祈っています。

今後も小さなエネルギーですが送りたいと思います。(篠原大・兵庫県)

夜は3軒にわかれてホームステイ。そのうちの1軒のようすをご紹介します。

GEN事務所から訪日団ホームステイの受け入れ先を探していると聞いて、家内に相談すると、以前中国大連に赴任中何度か現地社員に手厚いもてなしをうけたので、同じ中国の方ならおもてなしなくてはと2人ひきうけることになる。ところが、他のステイ先に不幸があり、ホームステイの当日になって急遽1人ふえて3人をむかえることとなった。

とにかく純粋な日本の生活を体験してもらおうと食事は日本料理、寝室は畳、お風呂も日本の入り方を説明、靴を脱いであがってもらう。結果、私たちが大同でホームステイをさせてもらうとき、見るものすべてがめずらしいように、彼らも同じようであった。食事は、寿司、刺身、生野菜なんでもOKだったが、大阪名物をと用意したお好み焼き、たこ焼き、豚饅がもっともおいしかったようだ。心配していたお風呂は、シャワーだけをつかったようで、問題はなかった。畳の部屋も好評で、寝室にも居間にも応接間にもつかえて便利でいいなどと話が盛り上がった。

今回、十分な接待はできなかったが、帰り際、彼らは家内と握手をしてぜひ今度はいっしょに大同に来るようにと言ってくれたのが、家内には一番嬉しかったようだ。少しはカ

ウンターパートとの友好の役に立ったかなとほっとしている。(楠森至朗・大阪府)

13日(土)

午後から、報告会・講演会を開催。緑色地球ネットワーク大同事務所所長の武春珍さんが「日中緑化協力の現場から」と題して、大同の気候や土壌条件の困難さ、緑化の進捗状況などを報告しました。立花吉茂代表は「緑化と環境問題」と題して、緑化の技術を伝えることのむずかしさや、現在の地球環境問題の深刻さなどを話しました。

夜は52人があつまって懇親会。日本側からは三線、マジック、二胡、中国側からはこの日に1人遅れて到着した柴京雲さんの二胡に漫才も飛び出して、楽しい時間を過ごしました。



柴京雲さんは、音楽だけでなく、絵も名人級！「魔術大師」中川さんの似顔絵。

14日(日)

研修をひと休みして、大阪観光。14人と、訪日団メンバーより多いボランティアさんに案内してもらいました。大阪城などを見学しましたが、メンバーの関心は買い物にあったようで、電器店やドラッグストアで多くの時間を費やしました。

大同市は私の故郷・大牟田市と石炭つながりで友好都市と知って、グッと親しみを感じました。短時間でしたが、訪日団の方とも会員の方とも楽しく交流でき、有意義な1日でした。(向井美香・大阪府)

15日(月)

奈良春日山原生林見学。GEN顧問の石原忠一さんの案内です。ここでも、



触覚、嗅覚、味覚までつかって植物にふれる。緑のボリュームや種類の多さに驚いていました。午後は東大寺で奉納されていた能・狂言を観劇しました。

訪日団のお供をしながら、最初に黄土高原の光景に接した時のことを思い出していました。普段見慣れた風景とまったく違った世界。初めて来日された方も同じ印象を持たれたのではないのでしょうか。その目に100年前の再度山の生態復元、1000年の歴史を持つ春日山原始林はどのように映ったのでしょうか。これらに人間の自然への干渉の結果としての黄土高原の100年先、1000年先の姿を見ていただけたとしたら光栄です。(小寺範生・兵庫県)

16日(火)

自治労大阪府本部の手配で大阪市内見学。中央卸売り市場、下水処理場、ゴミ焼却場などをまわりました。

17日(水)

サントリー京都ビール工場見学。サントリー労組のツアー参加者の職場拝見です。製造過程から配送、空容器の回収システムまで、説明していただきました。

サントリービールは申し分なく美味しかったです。

工場ではゴミを分類し、全てを資源化しています。汚泥まで活用しています。廃棄物を資源にする仕組みに焦点をあてた見学ができたなら、さらに意義深かったかと思いました。(前川宏・大阪府)

その後はGEN事務所、GENの財政や会員制度などについてレクチャー。

会員や協力者のみなさんが自主的にお金や労力を提供してGENの活動を支えてくれていることがわかってもらえたと思います。これで関西での日程は終了。

大阪観光、春日山とサントリー工場見学に同行させていただきました。“黄土高原だより”などを通して、活動をたびたびお聞きしている大同の皆さんに直にお会いでき、なお一層身近になった思いです。また、GEN会員の方々と交流の良い機会ともなりました。中日、日日の輪がますます広まり、深まり、強まることが期待されます。(太田宏明・京都府)

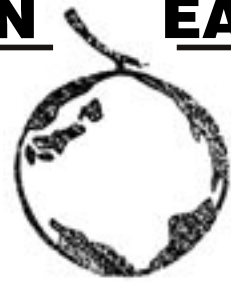
前回2002年に続き、今回もほぼ全日程に同行しました。時間的な余裕があるので可能なことですが、10回も黄土高原緑化ボランティアに参加した者としては、毎回同行して下さる現地スタッフの方々に対するささやかなお返しのお気持ちです。ただ、ついて回りビデオカメラを向けるだけのことで他に何一つお役に立つこともしていませんが痛く感謝されるので却って恐縮しています。

外国からの客に対するもてなしについて門外漢の者としては、何が喜ばれるかわからなかったのですが、前回、夜の道頓堀界隈を案内して街や水掛け不動尊・織田作之助の夫婦ぜんざいなどにほとんど興味を示されず、カメラのナニワ店で熱心に商品を選んでおられた姿が強く印象に残っています。

まだ現役の頃、国際学会が京都で開かれたとき、欧州からの出席者に寂光院や南禅寺を提案しましたが「振り袖の晴れ着を土産に買って帰りたいから案内してくれ」と言われ、せいぜい浴衣しか買えない予算で、呉服店を何軒も回り苦労しました。

主目的以外の観光は訪日者が気後れなく希望がいただけるようなもてなしの心が必要と思いました。(石原務・大阪府)

18日(木)



新幹線で東京に移動。国土緑化推進機構、日中緑化交流基金を表敬訪問したあと、イオン労働組合さんと懇親会。

19日(金)

オリエンタルランド見学。園内の緑化、環境問題への取組なども見てきました。その後、OFS(オリエンタルランド労働組合)のみなさんと懇親会。

20日(土)

研修は休んで、会員や協力者との交流をかねて東京観光。やはり、観光より買い物に熱中していたようです。夜は懇親会。46人が参加し、関東ランチ有志が「人形紙芝居」を日本語と中国語で熱演。また、ここでも柴さんが二胡の名演奏を披露しました。

秋晴れの1日を、大同の皆様とのショッピングツアーに同行しましたが、予想以上に面白いツアーでした。秋葉原のコスプレのお嬢さんからもホットな情報を得ましたので、次回はさらに多彩なアテンドができるものと思います。(美谷島克実・東京都)

お昼に銀座の某中華チェーン店へお連れしました。980円の四川風ラーメンに「3元のカップラーメンと同じ味だ」と一言。対して日本側の感想は「へえ、中国のカップラーメンはおいしいんだ」というものでした。

その後、数組に分かれました。ご一緒したお2人は安いものには興味がなく、欧風コートなど、私には無縁の高価で質のよい品物になると熱心に品定め。途中、銀座一等地にあ



人形紙芝居を熱演する関東ランチメンバー。

る「ゲッチ」店内のソファでお休みに。ホスト風の店員がじろりとにらんでもすやすや。ついている私の方が緊張しましたが、貴重な体験でした。

結局、ドラッグストアで薬を買い、懇親会場へと向かいました。楽しいひとときでした。(茂田井円・東京都)

今回の東京訪問の予定では、日比谷公園での催しにも参加できれば、という話もでていましたが、訪日団の目的はショッピングしかなかったと思えるほどの熱の入りようでした。

私は、懇親会で披露する紙芝居の準備のため、一足先に神保町へ向かいました。実は、紙芝居はまだ準備

不足だったのでやきもきしていたのです。出演者は1週間前に顔合わせして練習しましたが、そのときは日本語のセリフだけ。中国語訳のセリフは2、3日前にできあがり、当日30分前に読み合わせをした状況でした。やっと本番で、初めて通して紙芝居をやれたという有様です。せっかくいい台本を作ってもらったのに、はたして中国語でのお芝居が通じたのでしょうか。身内では結構受けてましたけど…。紙芝居のめくり役の美谷島さんは、わたしが「そうさのう。」(6回ほど同じセリフ一言で他のせりふは最後の1行だけ)というせりふを言うたびに笑ってしまって紙芝居

を持つ手が震えていたそうです。

大同市の一行は、その日の8時過ぎに東京駅から成田へ向かいました。「明年見! ミンニェンチェン!」また来年会いましょうといいながら握手して、お見送りをしました。

その後有志で2次会を開き、「また来年春に行こう!」と約束をして、長かったような短かったような1日が終わりました。(橋谷勇治・埼玉県)

21日(日)

全日程をおえて帰国。

たくさんの方々のご協力をいただき、訪日団を成功裡に終えることができました。ありがとうございました。

六甲山を見て思う

魏 生 学 (緑色地球ネットワーク大同事務所副所長)



魏生学さん(左)と馬占山さん(右)

が、これを効果的に食い止め、生態環境の保全に成功しています。

我々のプロジェクト地であるカササギの森も5年前は同じように荒地でした。六甲山地は温帯海洋性モンスーン気候に属し、1年中温暖で湿潤な気候のため、植樹後の活着率も高いのですが、反面、カササギの森は土壌の流失が著

しい黄土丘陵地帯に位置しています。そして六甲山とはその環境条件が大きく異なり、風が強い上に少雨で、年間降水量は六甲山の3分の1にも足りません。しかし私たちは自信を持って、そして確固たる決意によって、これからも中日双方の努力のもと、日々の地道な仕事によって、荒れ山を緑で覆い、100年後には、もしくはそれ以上の時間を必要とするかもしれませんが、カササギの森を必ずや「六甲山」に変えたいと思います。

日本で感じたこと

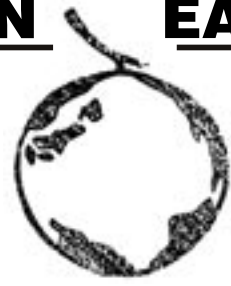
馬 占 山 (緑色地球ネットワーク大同事務所技術員)

我々訪日団9名は、2007年10月11日から10日間日本を訪れ、林業技術研修をおこないました。今回の研修を通じて学んだことは下記の通りです。

我々は六甲山地に位置する神戸市森林植物園や奈良の原始林を視察し、また日本各地で街路樹の緑化状況などを目にし、大いに見聞を広めることができました。日本は景観が大変美しく、森林被覆率も高く、気候も大変穏やかでした。特に、六甲山地の植物園と奈良の原生林を参観して、大同の造林の現状とは大きな開きがあるという現実を感じました。日本と大同の気候や立地条件には大きな違いがあり、降雨量は3倍も開きがあります。土壌は肥沃

で、有機質含有量も高く、その上植えられている木の種類や、その喬木、灌木、草の組み合わせも非常に合理的でした。これは今後造林をする上で、学ぶべき点でした。

我々のプロジェクト地は、乾燥寒冷地帯に位置し、年間降水量は300~400mmほどで、その大部分は7月から8月に集中しています。これは植樹活動に大きな弊害をもたらしています。今回日本の六甲山地の造林状況を目の当たりにし、1日も早く私たちのプロジェクト地を緑で覆い、まず植樹環境をととのえ、その上で喬木、灌木、草類などから広葉樹、針葉樹など様々な樹種をうまく組み合わせ、多種多様な造林



ができるようにしたいと心から思いました。そうなれば病虫害の被害を防ぐこともでき、また防火にも効果があり、それ以上に効果的に水土流失を防ぐことができます。

樹木の成長のスピードを速めるために、まず造林前の準備を入念にして、整地作業を確実にこなす必要があります。私たちのプロジェクト地の中でも、山地は岩肌がむきだしになり、土が薄く砂が多く、浸食谷は水土流失が深刻です。平地は砂地で有機物含有量も乏しく、土壌はどんどんやせていきます。よって山地では、それぞれの地形に合わせて、帯状、塊状、穴状に整地し、合理的な整地をおこなうことによって、土壌の性質を科学的に改良する必要があります。そして土壌の水分含有量を増やし、貯水、保水の役割が保てるように、抵抗力があり、また海拔の高低に適し、乾燥、干ばつ、寒さに強く、現地の気候に適用能力がある樹種を選び、合理的に設計し造林しなければなりません。例えば、比較的

抜の低い山では「モンゴリマツ、アブラマツ」を植え、浸食谷では「チョウセンヤマナラシやその他接ぎ木によって育苗したポプラ」などの広葉樹を混植し、灌木なら「ムレスズメ、黄刺梅*、ヤナギハグミ」などを選び、草類は「草*、木*、木犀*、ムラサキモメンヅル」などの根瘤がある品種を選ぶとよいと思います。

そして育苗は造林の基礎です。そこで今回私は、苗圃での通常の育苗以外に、科学技術性が高い小規模の育苗実験基地を作ることを提案したいと思います。大同の気候に近い地方の樹種で、大同には導入されていない抵抗力がある樹種、灌木を取り入れ、科学的根拠にもとづいた育苗をおこない、それを広めていきたいと考えています。

また森林を守ることも、人工造林が成功するか否かを決める重要な鍵です。日本で見た森林はどこも盗伐されている様子が見られませんでした。大同で造林保存率を上げるためには、まず森を愛し、森を守るという意識を高める

教育活動を行い、山地に住む人々の意識を高め、森林保護を推し進めなければならぬと感じました。

高見さんが緑の地球ネットワークのため、そして人類の緑の環境を創造するために大きな貢献をされてきたことを、私たちは真剣に学ばなければなりません。高見さんの説明を聞いて、緑の地球ネットワークの資金は、日本での地道な広報活動、講演活動などによって650名の会員が私たちの緑化活動を支持し、得られたものであることを知りました。このような国際ボランティア精神に敬服します。そして私たち中国人は、何が何でもこの仕事をやり遂げなければならないという思いを新たにしました。

※編注：*の漢字表記の植物名は、和名がない／不明のため原文のまま。

年末カンパのお願い

緑の地球ネットワークが1992年1月に活動を開始して満16年となりました。みなさんのご支援に感謝します。

GENの主要な収入源は、会費・カンパ・助成金・事業費などです。この16年間に事業規模が少しずつ大きくなり、みなさんからのご協力も徐々に大きくなっていて、大変ありがたいことです。

スタート時には助成金以外は個人のみなさんからのご協力が圧倒的でしたが、次第に企業・団体等からのご協力も増えています。地球環境問題への関心・願いが込められたものとして、誠意をもって使わせていただきます。

GENの会員数は11月上旬現在653個人／団体です。まだ会員でない方はぜひ入会いただき、継続して活動を支えていただけますようお願いいたします。

カンパは、緑化基金・運営基金・カササギの森・みみずく基金等、みなさんのご指定に応じて使わせていただきます。ご指定のない場合は、必要に応じて配分して使わせていただきます。

カンパの振り込みには、同封のリーフレットに折り込んだ郵便振替用紙をご利用ください。近々にご協力いただいた方には重ねてのお願いではありませんので、ご了承ください。

なお、2005年6月から国税庁から認定NPO法人の認定を受け、今年6月からは第2期目の認定が決まりました。GENへの寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額－5,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ・カササギの森協力金・みみずく基金と、会費のうち1口以上の部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

【ご協力項目】

○会費：一般会員年額12,000円、団体

会員年額12,000円、家族会員（家族の2人目から）年額6,000円、学生会員年額3,000円、ジュニア会員（中学生以下）年額1,000円、賛助会員年額100,000円（会費には会報購読料を含んでいます）。

○会報「緑の地球」購読料：年2,000円
○運営カンパ：日本国内の管理費用にあてます。

○緑化基金：中国山西省大同市の緑化協力費用全般にあてます（以下項目はご協力の2割以内を事務管理費にあてさせていただきます）。

○かささぎの森協力金：大同県カササギの森1ha5万円の緑化費用。

○みみずく基金：1口1万円。緑色地球ネットワーク大同事務所とGENが共同運営するプロジェクト（A. 環境林センター、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森）の運営費用。

その他、書き損じハガキや古切手、未使用の切手・テレカ、不要な商品券・外国コインなどを集めています。みなさんのご協力をお願いします。

植物屋のこぼれ話 (続編) その16

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

●接ぎ木の不思議

果樹類はほとんど接ぎ木で繁殖されるから、その台木の研究が進んでいる。とくにミカン類は、強勢台、矮化台などが使われている好例である。傾斜地のミカンはカラタチの台木が使われる。それは矮化台で、狭い幅の斜面に好都合だからである。近年、リンゴも矮化台が使われはじめた。リンゴは広い土地に植えられるけれども、農家の高齢化がその原因である。お年寄りには脚立使用の作業が困難だからである。その台木にはヒメリンゴやサンザシが使われているという。

近年には野菜が、特に果菜類がハウスの連作障害を防ぐのに野生の種類や別種の植物を台木に使っている。スイカの台木にはカボチャ、カンピョウなどが、トマトやナスには別種のアカナスが使われている。消費者はこんな事情はあまりご存じないようだがけっこういろいろと研究されている。これに反し観賞植物は接ぎ木などしている例がほとんどない。しかし、緑枝接ぎの技術を使えば誰でも草花の接ぎ木はできる。写真はヨモギ台に栽培菊(キク)を接いだものである。セイタカアワダチソウにもキクを接ぐことができる。

●緑枝接ぎの技術

緑枝接ぎの方法が開発されたのは1960年のことだからもう50年にもなる

のだが、いまだに園芸の専門家ですらご存じのない方がおられるのは不思議だ。とくに沖縄ではまったく知られていない。開発当時沖縄はまだ軍政下だったから内地の情報が入らなかったであろう。

沖縄には4種のカラスウリが野生している。これを台木にすれば連作を嫌うウリ類が連作できることになるし、ヤンバルナスビにミニトマトを緑枝接ぎをしたら1年中結実した。セイバンナスビという野生種もある。これらの果菜類はすべて緑枝接ぎで100%成功する。

●接ぎ木親和性と交配親和性

ハイビスカス研究のとき、この両親和性を比較したことがある。植物分類学上の交配親和性は属間ではほとんどダメだが、接ぎ木親和性は属間では成功率は100%に近い。しかし組み合わせによっては成長に大きく差がある。親和性の程度を見る尺度のひとつとして接ぎ木部分の形で見分けられる(図)。

接ぎ木は同じ科に属していればほとんど活着するから、



ヨモギに接いだ栽培キク

ウメにモモを接いでもナシを接いでも活着する。ただしあまり伸びないで短命である。

緑化の樹木でも、中国北部のような難しい土地柄では、接ぎ木が案外面白い結果を見せるかもしれない。いろいろやってみたいものである。

GREEN なんでも勉強会 生命と環境、循環と廃棄

人間が自然を保護するなんて言うけど、そもそも人間だって自然の一部じゃないの?とか、“環境にやさしい”って、なんだかうさんくさいと思ったことはありませんか。人間の活動を自然現象としてとらえるところから、環境問題を考え直してみましよう。講師は自治体で長年ごみの仕事に携わり、エントロピー学会の会員でもある川島和義さんです。

●日時：12月11日(火)18時30分～20時30分

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター(ORC200ビル7階 JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅から直通通路すぐ)

●講師：川島和義(GEN副代表・自治体職員(ごみ行政に従事))

※第2回はごみ問題に入ります。予定は次のとおりです。

◎日時：2008年1月29日(火)18時30分～20時30分

◎場所：大阪市立総合生涯学習センター(大阪駅前第2ビル5階)

助成が決まりました

日中緑化交流基金から、大同市北部における緑化事業に対して、950万円の助成が決まりました。ありがとうございます。



黄土高原史話〈37〉

「松柏の茂るが如く」と祈りしも

谷口 義介（摂南大学教授）

歌人の道浦母都子さん^{いわ}曰く、「あちこち散歩するときや、地方へ講演などに行くおりは、植物図鑑は必携」と。草や木の名をそのつど憶えて、歌作りに役立てる由。言われてみれば、『無援の抒情』以降、たしかに植物名がふえてきて、一首の中に白木蓮と枝垂れ桜と菖蒲^{あやめ}を詠み込んだ例すらも。

対照的なのは三島由紀夫。概念つまり文字面だけでしか「松」を知らず、人に実物を教えられて、「これが松なの」と言ったとか。この話ホントだとすれば、さすが三島！

数年まえの9月上旬、黄土高原は涼秋の候、緑が回復した霊丘自然植物園の樹下の草花。名はリンドウしか分かりませんが、紫の濃さは今でもまぶたに鮮明に。

「柏」が節句の柏餅をつつむ広葉のモチカシワではなく、むしろヒノキの葉に似たコノテガシワであることは、黄土高原に来て初めて知った。今名は「側柏」、学名を *Thuja orientalis* L. という。中国の西北部および華北に原産。ところが、柏にはもう一種あって、今名「柏木」、学名 *Cupressus funebris* Endl. と

いい、華北～華中平原に分布する。

ワーキングツアーで主に植えるのがアブラマツ。潘富俊『詩経植物図鑑』（上海書店出版社、2003年）は、『詩経』に出る「松」を今名で「油松」、学名 *Pinus tabulaeformis* Carr. とする。ところが、同じ著者の『楚辞植物図鑑』（同社、同年）は、『楚辞』に見える「松」は今名「馬尾松」、学名 *Pinus massoniana* Lamb. と同定。そもそも中国には、赤松・黒松・白皮松・華山松など22種10変種があり、形態がよく似ているので識別が難しいらしい。だいたい「油松」は黄河流域各省の山岳地帯と四川省に、いっぽう「馬尾松」は秦嶺山脈以南、淮河・漢水流域と雲南・両広に分布するそうだ。

しかして『詩経』は黄河中・下流域の古代歌謡集、『楚辞』は楚（湖北省）の屈原・宋玉らの辞賦を集めたもの。だから、華北の『詩経』に数見する「松・柏」とは油松と側柏、いっぽう華中の『楚辞』に見える「松・柏」は馬尾松と柏木ということに。

いずれにせよ、松と柏は冬なお凋むことなき常緑樹。そのため、長寿をこ



とほぐ吉祥の木とされた。

南山の寿の如く^か 鶯^{くず}けず崩れず^あ
松柏の茂るが如く 爾^{なんじ}を承くる或^う
らざる無し

『白川静著作集』第9巻（平凡社、2000年）の月報に私は一文を寄せ、『詩経』「小雅」天保の末節いわゆる「南山の寿」をかかげて、恩師の寿康を祈った。このとき先生は90歳。その後も夔^{かくしゃく}鑠として『著作集』全12巻を完成され、別巻18冊も陸続刊行された。しかし昨^{こつえん}06年10月30日、わが生涯の師は忽焉^{しる}として長逝された。嗚呼、悲しい夫。（一周忌のご命日に識す）

2008 春の黄土高原ワーキングツアーご案内

いよいよ来年は北京オリンピック。ホテルをはじめ諸物価は上がるし、交通は大混雑。ということで、来年夏の黄土高原ワーキングツアーはお休みします。

協力団体のツアーも春に集中して大同事務所の負担が大きくなるので、みなさんお楽しみのおホームステイは残念ながらあきらめざるをえません。どうかご理解ください。

春のツアーは霊丘自然植物園がメインです。樹木の観察には春が適しています。リョウトウナラやシラカンバなどが年々大きくなり、大同の緑化の可能性を示してくれる自然植物園をじっくり観察して、村での植樹にも汗を流

しましょう。

●日程：2008年3月29日（土）～4月5日（土）8日間

●費用：159,000円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費を含む。GEN年会費〈一般＝12,000円、学生＝3,000円〉、燃油特別付加運賃、空港使用料、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない）※中国国際航空利用 ※関西空港発着 ※成田便利用希望の方は、航空運賃の差額2万円が別途必要です。 ※旅行社の添乗員は同行しません。

●訪問先：中国山西省大同市（北京経由）

●定員：35名

●最少催行人数：12人

●締切：2月20日（成田便利用の方は2月8日）

●呼びかけ・内容に関する問合せ：緑の地球ネットワーク

●申込先：（株）マイチケット（エアーワールド（株）代理業 tel. 06-4869-3444 fax. 06-4869-5777）

●旅行企画・実施：エアーワールド（株）国土交通大臣登録旅行業第961号日本旅行業協会会員

※参加をお考えの方は、まずGEN事務所までご連絡ください。資料と申込み書類は（株）マイチケットから郵送しますが、12月に入ってからになります。



みなと森と水会議 2007

- 日時：11月29日(木) 10時～19時、30日(金) 10時～20時30分
- 場所：赤坂区民センター(東京都港区赤坂4-18-13 tel. 03-5413-2711)
- 参加費無料
- 問合せ：港区環境課地球環境係 (tel. 03-3578-2111)
- 申込み：みなとコール tel. 03-5472-3710 (11月28日まで、先着順。連日7時より23時まで受付)

映画「不都合な真実」上映、坂本龍一さんのトーク、環境落語などもりだくさん。30日13時から16時までの「世界の森へ～世界の森林再生へのチャレンジ」では、GENの高見事務局長も講演します。要申込み。

関西 NGO 協議会 20周年記念写真展
子どもをとおしてみる世界

- 期間：11月26日(月)～12月3日(月)
- ※終日入場可能。ただし、初日のみ17時開場。
- 場所：みちまちスクエアきた (JR東西線「北新地」駅改札東側、大阪駅前第2ビルB2)
- 主催：NPO法人 関西 NGO 協議

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

会 (<http://park15.wakwak.com/~knc/>、
e-mail : knc@ak.wakwak.com tel.
06-6377-5144 fax. 06-6377-5148)
環境破壊、貧困、紛争……。真っ先に影響をうけるのは、子どもです。NGO 22団体が子どもの写真を持ち寄りました。GENも提供しています。

地球環境市民大学校
環境 NGO と市民の集い
持続可能な社会への挑戦!

- 日時：12月1日(土) 9時30分～16時
- 場所：エル・おおさか(大阪府立労働センター 大阪市中央区北浜東3-14 京阪/地下鉄「天満橋」駅 tel. 06-6942-0001)
- 参加費無料 ●定員：100人
- 主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
- 企画・運営：NPO法人 環境市民
- 第1部 シンポジウム
「今だ! 止めよう温暖化 市民と NGOは何をすべきか」
- 第2部 取り組み発表会
「見たい! 聞きたい! 話したい! 環境 NGOってどんな活動しているの?」
- 第1分科会：大気・水・土を守り活

かす/第2分科会：自然を守る/第3分科会：森林を守る・緑化する/第4分科会：次世代を育む環境教育に取り組む/第5分科会：温暖化防止・持続可能な社会システムをつくる

○交流会(16時30分～18時30分、環境 NGOのメンバーと交流。飲食代実費負担)

- 問合せ・申込み：NPO法人 環境市民 (〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下る呉羽ビル3F tel. 075-211-3521 fax. 075-211-3531 <http://www.kankyoshimin.org/> e-mail : entry@kankyoshimin.org)に、氏名・住所・電話・FAX・E-mail・所属・参加希望の部(第1部、第2部(分科会)、交流会)を添えてお申し込みを。E-mailの場合はタイトルを「環境 NGO と市民の集い申し込み」としてください。

